

# 令和5年度 北見カトリック学園幼保連携認定こども園美幌藤幼稚園 学校評価

## 1.教育目標

- 1、ひとり一人がかげがえのないものとして神様から愛されている事を知り神様への感謝を忘れない子に育てていく。
- 2、友達と一緒に遊びや運動を通してお互い助け合い、思いやりの心を養う。
- 3、発達段階に即した自立心を促す中で健康に必要な習慣や態度を身につける。
- 4、自然との関わりを持ち素直な心で自然の恵みに気づき感謝しすべての物を大切にすることを養う。

## 2. 教育目標達成に向けての令和5年度の重点

- ・日常生活の中で神様の素晴らしさ優しさを感じ祈る。
- ・集団生活を通じて基本的な生活習慣を身につける。
- ・発達段階に応じて主体的、意欲的にのびのびと活動する。
- ・ひとり一人の個性を尊重しお互いに認め合う。

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.4	日々、保育の振り返り、月末のカリキュラム反省を行う。未満児は個々に合わせた計画を立てている。反省だけで終わらず、次に生かされるような反省、検討が必要である。
保育の充実と園児との関わり	3.5	ひとり一人を大切に個々に合わせた、丁寧なかかわりを持つよう心掛けた。園児が中心となるような保育を考えるように努めた。
安全管理	3.7	日常的に門扉や玄関の施錠。保護者・来客が玄関対応とする。園児の送迎に関する注意喚起も行う。特に冬場の注意喚起は繰り返し必要である。施年3回の安全点検、遊具点検は月1回実施。職員が日常の中にある危険への想像力を働かせることが必要。
地域の幼児教育機関としての役割	3	週3回未就園児教室を行う。ほぼ毎日ブログを更新し情報を発信、新聞、広告などを積極的に活用し広報活動を行う。クリスマスカード・新入園児への年賀状等の郵送など心掛けた。直接地域の方に接するような活動が足りなかった。
教員の資質・能力向上	3.6	毎月の各園内研修は、全員が揃えない事を前提に行い、プリントなどで代替とする。実際に見聞するのと紙面上での温度差をなかなか埋めることができなかった。地方主催の研修もズームでの参加を出来るだけ行う。
保護者との連携	3.8	園だより、クラス通信、連絡帳、電話や口頭等で園の様子をこまめに保護者に伝えた。個人懇談を学期ごと行う。コドモンでの連絡ツールを利用しているが、直接対話することも併用してきた。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

## 4. 令和4年度の総評

結果	理由
3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが5類に移行し公共の場の利用や活動の幅が広がった。</li> <li>・特別支援計画を作成し学期ごとの評価、また個別の関わりが必要な園児への対応の仕方を職員間でできるように努めた。</li> <li>・園児への安全への配慮と不適切な保育に対する周知を行ってきた。</li> <li>・全職員間の連絡・報告を細やかにとるように心がけてきたが、十分ではなかった点もある。</li> </ul>

## 5. 来年度に向けての課題

- ・宗教的な環境づくりに努める。
- ・保育者同士の密な連絡・報告をより丁寧に行う。
- ・保護者との共通理解を図りながらこまめな連絡、連携を取るよう努める。
- ・コドモンの機能を生かしながら、職員の業務の軽減、保護者への発信を行う。
- ・職員研修や園外研修を積極的に行い、保育力向上に努め、互いに高め合う。